

倉本聰さんと磐田市民の交流30周年特別企画

くらもと そう
倉本聰

感じたこと、伝えたいこと

1935年東京生まれ。富良野市在住。'84年役者や脚本家を養成する「富良野塾」を設立。代表作にテレビドラマ「北の国から」「やすらぎの刻〜道」、舞台「屋根」など多数。環境問題にも積極的に取り組み富良野自然塾主宰

日本を代表する脚本家、倉本聰氏が
磐田市で点描画展を開催

倉本聰氏は、「樹」からどのような声を聴き
その声をどのように表現しているのか
その画に込められた思いを感じてほしい

北海道富良野市を拠点とし、
これまで「北の国から」「前
略おふくろ様」「やすらぎの
刻々道」などの作品を生み出
してきた倉本さん。30年前の
1990年10月、文化講演会
の講師として初めて磐田市に
来られて以来、数々の舞台公
演や城山中学校での特別授業
など、継続的に磐田市との関
係を築き、今回で12回目の磐
田市訪問となりました。

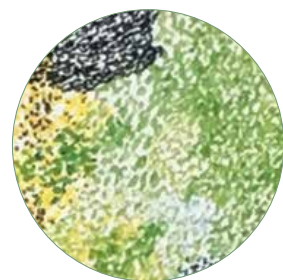
倉本さんは、新型コロナウイルス
イルス感染症の影響により、
今年の2月から北海道を出る
ことがありませんでしたが、
磐田の関係者による熱い要望
に応え、自らが描く点描画の
企画展を磐田市で開催してい
ただいています。



1990.10
文化講演会
初めて磐田市へ
(磐田市民文化会館)



1994.3
城山中学校で
特別授業



「点描とは」
絵画などを線でなく点の集合や
短いタッチで表現する技法

大自然に囲まれた生活の中、
常に樹と向かい合ううちに、樹
の声を感ずるようになったと
話す倉本さん。その声に、日々
感じる思いを添えて、点描画
を描いています。
倉本さんが描くのは「樹」
と「森の情景」。ペン先で点を
打ち、その点の大きさ、濃淡、
密度で生み出す「倉本聰の世
界観」をぜひご覧ください。

倉本聰氏が描き続けている点
描画から厳選した約60点に加
えて、「北の国から」などの代
表的な脚本作品に関する貴重
な資料なども展示しています。

JR磐田駅北口にある「善導
寺大クス」の点描画も展示し
ていますので、倉本聰氏が描く
磐田も含め、その世界観を会
場でご覧ください。

- ▶とき／1月17日(日)まで
- ▶ところ／香りの博物館
- ▶入場料／一般800円、学生
200円、小中学生100円
- 📍香りの博物館 ☎ 36-8891
FAX 39-0711



▲磐田駅前の巨木(クスノキ) /2019

《添えられている文章》

テレビでは
ポツンと一軒家ってのが
何だか評判になってるそうだが
わしはコンクリートの街の中で
今やポツンと一本木ですわ



春「月夜」
2015



夏「雨あがる」
2017



秋「詩を想うリス」
2015



冬「夜明け」
2017

S O H K U R A M O T O

倉本 聰 点描画展

～森のささやき・樹の香り～

特別対談

脚本家 倉本 聰 × 市長 渡部 修



倉本聰と磐田市

(渡) 皆さんが不思議に思うんですが、倉本先生はなぜ30年の長きに渡り、磐田市に関わっていただいているのですか？

(倉) 磐田市の関わりある方々が熱い思いで誘ってくれるからです。それと、いつも満員のお客さまが素晴らしい反応してくれるので、役者たちも行きたがるんです。

倉本聰が思う磐田市

(倉) 磐田って不思議なまちですよ。卓球の世界的選手が出たり、長澤まさみが出たり。

(渡) 根拠はないですが、磐田には良い出会いがあり、その人に感化されて成長するんじゃないでしょうか。

(倉) 親や指導者が良いんでしょうね。きっと、磐田には道場的な文化があるんですよ。上下関係による教えや指導がしっかりしているんですよ。

倉本聰の魅力

(渡) 倉本先生は、「北の国から」をはじめ、磐田で開催してく

れた演劇など、脚本家・演出家・劇作家としての魅力はもちろんですが、私も含め、皆がお話に引き込まれるんです。コミュニケーションがすごく上手ですよ。

(倉) そんなことはないですが、コミュニケーションってすごく大事ですよ。僕も役者に演技を伝えなければいけない。点描画を始めたきっかけも、役者に演技を伝えるのに言葉だけじゃダメだから紙に絵を描いていたところから。

伝える方法っていろいろあって、どうやってたら伝わるのか、伝え方も大切ですよ。

倉本聰の発想

(倉) 僕は、感覚で生きているものだから論理的なことは分かりませんが、時々こうじゃないかっていう「ひらめき」があるんですよ。創作の仕事は、右脳の感性脳と左脳の理性脳のうち、理性脳で構築するんですが、感性脳でひらめきがないと一つの作品にならないんです。僕は、どちらか

と言うと感性脳の方が得意で、理性脳の方は苦手なんです。

(渡) 実は、私も感覚を大切にしている方なんです。理性的なことは職員が頑張ってくれてますから。きっと作品づくりもまちづくりも似ているところがあって、それぞれ役割があり、得手不得手を見ながら補いながら創り上げていくことが大切なんじゃないかな。

倉本聰が考える将来

(倉) 最近、多くの専門用語が英語やカタカナで表現されていて世間では一般化しているけど、きっと全員が分かっているわけじゃない。こういう分からないことが分かる前に、さらに次に進んでしまうようなことが際限なく起こってしまふことってどうなんでしょうね。そういう時代なんだろうけど、「そんなことは子どもでも知ってるよ」とか言われると腹が立つちゃいますよね。

本当にこのまま時代がどんどん進んでいくことが良いのか、少し不安に思いますね。

倉本聰が願う新文化会館

(渡) 今、磐田市で令和4年度の開館に向けて新しい文化会館を建設しているんです。完成した折には、またぜひ磐田市へお越しください。

(倉) この時期に新たな文化施設を建設できるって、すごいことだし、うれしいね。僕はもう高齢だから公演は難しいだろうけど、作品の作り手や演じる人にとってもすてきな会館にしてください。

